

令和4年度

渋谷区立渋谷本町学園中学校 学校説明会

令和4年 10月 1日(土)

午前10時35分 ~ 午前11時25分

3階 視聴覚室



もくじ

1	渋谷本町学園 学校経営計画	1
2	生活時程表	7
3	学校生活の様子	8
4	評価・評定について	13
5	資料・昨年度の進路実績	15
6	服装・学校生活のきまりについて	16
7	携帯電話について・同意確認書	20
8	部活動について	22
9	特別支援教育	24

令和4年度 渋谷本町学園 学園経営理念
=小中一貫教育推進=

1 状況根拠

教育を取り巻く環境は、国際化の進展、核家族化や少子化の進行、区民ニーズの多様化・高度化などにより、大きく変化している。義務教育の9年間中、「小1プロブレム」「10歳の壁」「小学校高学年の不安定さ」「中1ギャップ」などが課題として取り上げられている。特に、中学校へ進学するにあたり、学力面、生徒指導面、人間関係等から戸惑いや不安を感じる子どもたちが多くいることが各種実態調査においても明らかになり、自己有用感の低下も指摘されている。さらに、身体面においても現在の小学校5年生は、昭和25年の中学校1年生の体格を上回っています。これは、児童の心理的、身体的発達が早まり、小学校5年生ごろから思春期特有の著しい心身の変化が見られてきていると考えられます。反面では生活の自立や進路選択面での自立が遅れている。平成25年6月に閣議決定した第2期教育振興基本計画においても「小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指し、義務教育9年間を通じて児童・生徒の発達に合った学びを実現するため、小中一貫教育の取組を推進する」との文言が盛り込まれた。このような状況を踏まえ、小中学校の教職員が一体となって学習指導や生徒指導等に系統的、継続的に取り組み、義務教育9年間の指導を行うことが重要である。

2 小中一貫教育の基本的な考え方

小中一貫教育を実施することにより、児童・生徒一人一人の「生きる力」が一層育まれ、充実した学校生活を送ることができ、児童・生徒が本町学園で学んでよかったと思えるようにしたい。また、小中一貫教育をとおして渋谷区や本町地区の自然や文化、歴史、地域を支える人々などについて、小中学校で「シブヤ科」を計画的に学んでいくことで郷土のよさを改めて認識させていきます。これらにより、児童・生徒が渋谷区を誇りに思い、周りの人に感謝し、本区を愛する人になることを期待する。

＝なぜ小中一貫教育なのか？＝

- 9年間継続した指導のもとで学習に取り組むことができる
中学校の学習への接続を意識した小学校段階での指導の充実を実現し、9年間継続した系統的な学習に取り組むことができる。また、小学校第1学年から中学校卒業時の児童・生徒の姿を意識した学習指導・支援を計画的に行うことができる。つまり、一人一人の特性（持ち味）を9年間かけて伸ばし育てる教育を展開することができる。
- 環境の急激な変化を緩和し、幅広い人間関係を築くことができる
小学校から中学校への環境の激変を緩和することにより、ストレスを解消・減少し、幅広い年齢の児童・生徒と学校生活を共にすることで、多様な人間関係を形成し、自己有用感を高めることができる。
- 児童・生徒の発達に合わせ、9年間をとおした生活指導を行うことができる
小・中学校間の情報共有をさらに密接に行うことにより、9年間の継続的な生活指導を充実させることができる。

3 小中一貫教育で目指すもの、資質・能力

子どもたちが、将来、職業生活や市民生活、文化的生活を過ごす上で、よりよく社会や世界と関わり、よりよい人生を送るために、必要な資質・能力を育成する。

○育成する力

批判的思考力

種々の情報に対して、その正しさを根拠に基づき、客観的、論理的に評価したり、他の見方や考え方はないかなどと、多様な視点から考えたりする力。

問題解決力

明らかにしたいこと、知りたいこと、改善すべきこと、達成したいことなど、自分や自分が属する集団にとっての課題や問題を発見し、その解決や目標達成をなすとげる力。

協働力

学びを深めたり、目標達成に向けて取り組んだりするために、他者と協力する力。

伝達力

自分の考えや主張、調べたことなどを分かりやすく、正しく伝える力。

先見力

ある行動や出来事、働きかけの結果としてどのようなことが起こるのか、何をどうすればうまくいくのか、うまくいかないのかなどを予測し、それに基づき適切な判断をする力。

感性・表現・創造力

音楽や造形物、自然物や身体、形や色、音、触感、言葉や記号などから何かを感じ取ったり、それを通じて表現をしたり、美しさや新しい価値を生み出したりする力。

メタ認知力

自分が考えていることや理解の程度、感じていることなどを自分自身で感じ取り、それに応じて思考や行動などをよりよい方向にコントロールする力。

○態度・価値

愛する心

生き物や自然、国や郷土・渋谷、伝統や文化、家族や友人、そして自分自身について、愛情や尊重する気持ちを持ち、大切にしようと思う心。

他者に対する受容・共感・敬意

人それぞれが多様な考えや意見、価値観をもつことを理解し、それが自分と異なる人も受け入れる態度や、相手の気持ちに共感したり、敬意や感謝の気持ちをもったりする心。

協力し合う心

集団の中で積極的に他者と協力したり、関わりをもったりする態度や、集団における役割を果たそうとする責任感、リーダーシップやフォロワーシップ。

より良い社会への意識

人々の生活や社会の仕組みを見直し、より良いものにしようとする意識や、そのために社会と積極的に関わり、大切なことや良いこと、必要なことを実践しようとする態度。

好奇心・探究心

詳しく知りたいと思う気持ち、些細な出来事にも興味関心をもつ態度、知りたいことや解決したいことを見つけようとする姿勢、疑問に合理的な答えを得たいと思う心。

正しくあろうとする心

ルールを守ろうとする心、道徳的に正しくあろうとする心、欲望や感情に流されない自制心、公平・公正であらうとする心、悪いことを憎むなどの心。

困難を乗り越える心

大変なことでも粘り強く取り組んで最後までやり遂げる姿勢や、間違えや失敗にも意欲を失わず、そこから学んで再挑戦する態度。

向上心

より高いものを目指して、自ら決めた目標に向けて努力したり、一人の人間としてより良い生き方や自分らしさを求めようとしたりする態度。

4 目指す学園像、目指す児童・生徒像

「義務教育を終える段階で身に付けておくべき資質・能力は何か」という観点から、児童・生徒の将来を見据え、自立した大人をイメージして15歳段階の目指す児童・生徒像を設定していく。また、その像を前提として、各学校段階や学年段階の区切りごとに設定し、学校と保護者、地域住民の役割分担も行いながら、各段階での責任をもった取組を強化していく。

「目指す児童・生徒像」の実現に近づくためには、児童・生徒の学習状況や地域の実態等を踏まえ、特定された課題に即した具体性のある目標を設定。目標の実現には、9年間の継続的、系統的なカリキュラムの指導の中で、また、小中の連携・交流、相互の理解を深める中で、バランスよく資質・能力を育てていくことが重要である。学校評価の評価項目・指標の設定にあたっては、関係者が努力の成果を実感してさらなる改善への意欲を高めたり、保護者や地域住民と進むべき方向を共有して協力関係を強化できるようにする。

【学校教育目標】

- ・かながえる
- ・心ゆたかに
- ・たくましく

【目指す学園像】

主体性の育成と魅力ある学園

◆生徒の主体性

- ・生徒に任せ、活動の成果を待つ。
- ・自ら考え、判断、行動する。
- ・自ら鍛え、生きる力を身につける。

◆魅力ある

- ・特色ある
- ・学びが保障される授業
- ・誇れる
- ・開かれた

◆そのために

- (1) 児童・生徒が目標を持ち自己能力の開花に努めるとともに、学校行事等において、教師の指導の下、企画運営を生徒に委ねる。
- (2) 愛校心を抱き、児童・生徒が誇れる学校づくり。
- (3) 家庭、地域社会の教育力を生かすとともに、保護者が安心して児童・生徒を任せられる。
- (4) 教職員が一人一人を温かく見つめ、弛まぬ授業改善をとおして児童・生徒の学びを保障する。
- (5) 秩序と潤いがあり、よき仲間として支え合い競い合い、励まし合って健やかに成長できる。
- (6) 一人一人の良さや可能性を共感的に把握し、最大限に伸ばすことに努める。
- (7) とともに活動することをおして、子ども同士がお互いのよさを認め合い、他者とかかわる力を高めるとともに、集団としての凝縮性を高めていくように努める。
- (8) 子どもの実態や学年の発達段階に立って、計画的・継続的・実践的な取り組みを推進し、生涯にわたって生きて働く基礎・基本を身につけさせることに努める。
- (9) 子どもに絶えず心に響く刺激を与え、子どもの変容に視点を当てた教育実践に関する

- る評価を計画的に実施し、変革の視点をもって教育課程の改善・充実に努める。
- (10) 人権感覚の育成に常に配慮し、全教育活動において心に響く道徳教育を推進する。交流活動を多様な関わりを経験させ、豊かな人間関係を育成する。正しい人権感覚の醸成と「時間を守り・環境を整える・礼を正す」を全ての教育活動の根底に据えて指導することによって高い規範意識の育成に努める。

【目指す児童・生徒像】

- ・夢をもち、進んで学ぶ元気な子ども（確かな学力・育ちあい）
- ・思いやりをもち、心をひらいて笑顔であいさつする子ども（豊かな心・助けあい）
- ・自信をもち、互いの良さを知り共に生きる子ども（健やかな体・認めあい）
- ・地域に誇りを持ち、地域を支えようとする子ども（自己有用感・郷土愛）

5 小中一貫教育推進の形態

【教育課程における学年の区切り】

児童・生徒の心や身体の発達段階を踏まえ、初等部(1～4年生)で基礎・基本の定着を図り、中等部(5～7年生)は、漸次、教科担任制取り入れ、基礎・基本の徹底に重点を置いた指導を行う。高等部(8～9年生)は、生徒の個性・能力を十分に伸ばし、実践力の伸張を図る指導を行う。

6 小中一貫教育推進のための「5つの視点」

(1) 小中一貫教育目標の設定

小中学校で目指す児童・生徒像を共有し、その実現に向け、初等部(1年生～4年生)・中等部(5年生～7年生)・高等部(8年生～9年生)ごとの「つきたい力」とそれに応じた指導内容などを設定し実践する。

(2) 教育課程・指導形態の工夫・改善

教育課程(カリキュラム)の編成や指導方法などの工夫・改善を図り、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成を目指す。その中で、小中の指導内容の連続性を意識した小中一貫カリキュラムの編成や指導・支援方法の統一を行う。また、中学校教員による小学校での授業の実施や、小中合同での授業研究の実施等による、9年間を見通した学習指導の充実を図る。特に、9年間をとおした「学びの約束・ルール」を設定し、小学校低学年から一貫性のある指導を積み重ねることで、「主体的に学びに臨む姿勢」と「主体的に学び続ける力」を高めていく。

(3) 教育活動の連続性の確保

小中学生がともに活動する機会の充実等により児童・生徒の自己有用感を高めるとともに、教育活動の連続性を推進する。小学生と中学生の交流活動など、小中学校の学習・生活の円滑な接続に向けた取組を実施する。

(4) 教職員間の連携・協働

小中学校の教職員間の「連携」と「協働」を深めていく。その上で、小中一貫した指導方法や行事等の企画・立案とその実現に向けた具体的な取組を推進する。

(5) 家庭・地域との連携・協力

家庭や地域との「連携」「協力」をより一層推進していく。特に、小中一貫教育の取組について、児童・生徒や保護者、教職員等への学校評価アンケートを実施し、点検・改善を推進。

7 小中一貫教育の推進により期待される効果

(1) 学力の向上

義務教育9年間を見通し、児童・生徒の発達に即した系統性、継続性のある指導や中1ギャップの解消・緩和により学習意欲の高揚が図れ、学力の向上が期待される。

(2) 「シブヤ科」をとおした郷土を愛する豊かな人間性や社会性の育成

小中学校児童・生徒の異年齢集団の連携や地域の方々との交流を通して、集団の中で自己有用感や自尊感情が高まり、コミュニケーション能力や規範意識などの社会性が育ち、人との関わりが広がる。さらに、シブヤ科の学習をとおし、渋谷区や本町地区の豊かな自然や文化、歴史、地域を支える人々などについて、小中学校で計画的に学んでいくことで、郷土のよさを改めて認識することができ、渋谷を誇りに思い、周りの人に感謝し、次代を担う人材の育成や発展に貢献する意識を高めるようになることが期待できる。

(3) 5、6年生および7年生の不安感の緩和

小学校高学年から可能な範囲で教科担任制を取り入れ、小学校と中学校の教員が相互に乗り入れて授業を行うことによって、中学校への接続を円滑にし、中学校進学に対する不安の解消や進学への期待感の高まりが期待できる。

また、英語教育重点校としてALTをフル活用し、中学校の英語授業や小学校の外国語活動の充実を図り、今後も児童・生徒の国際性の醸成とともに英語学習への関心意欲の高まりが期待できる。

(4) 教職員の意識改革

小中学校教職員が、学区の特性と課題を共有し、9年間で児童・生徒を育てる意識をもち、教育活動を実践します。これにより、小中学校間の文化の違いやそれぞれのよさを理解し合い、学習指導や生徒指導により変化が見られることが期待できる。

8 附則

(1) 郷土教育(シブヤ科)の推進

郷土教育は、人間としてのよりよい生き方を求める「心の教育」の充実を目指したものである。児童・生徒が郷土の自然や人間、社会、文化、産業等とふれ合う機会を充実させ、そこで得た感動体験を重視することによって、「郷土のよさの発見」「郷土への愛着心の醸成」「郷土に生きる意欲の喚起」を目指す。

(2) 特別支援教育の充実

小中学校教職員が特別な支援を必要とする児童・生徒の情報交換を密にし、より多くの交流の機会を設け、協力体制を整え、小中学校で継続した指導を行うことで、児童・生徒が個々の可能性を最大限に伸ばし、自立して社会参加できる資質や能力を身に付けることができるようにする。

(3) 保護者・地域への啓発および理解・共有の促進

小中一貫教育を充実したものとするためには、保護者や地域住民の理解・協力を得ることが大切である。特に、地域との関わりの中で、15歳までに「どのような子どもを育てていくか」という目指すべき姿を保護者や地域住民と共有し、小中一貫教育のカリキュラムに地域の特色を活かしていけるようにしていく。また、子どもたちの豊かな学びと育ちを地域ぐるみで支えられるようにするために、保護者・地域の方々への啓発および理解・共有の促進を進める。さらに、地域住民・保護者等が学校運営に参画する「学校運営協議会」の調査・研究を進め、小中一貫教育を効果的に推進していきけるようにする。

小中一貫教育の予想される取組例

(1) 児童・生徒の交流

- 学校行事等の合同実施や相互参加
 - ・校外学習、運動会、音楽祭等への合同実施、相互参加
 - ・スポーツの交流
 - ・小学生に対する中学生の指導

○ 5、6年生の中学校体験

- ・中学生との合同授業
- ・生徒会と児童会の交流
- ・部活動見学、部活動体験

(2) 教職員の交流

- 合同研修会

SHIBUYA
HONMACHI
GAKUEN



渋谷本町学園 9 の特色ある取り組み

<p>1 目標を共有しよう</p>	<p>2 より深く学び</p>	<p>3 交流の輪を広げよう</p>	<p>4 魅力ある部活動を</p>	<p>5 Let's Enjoy English!</p>
<p>6 3つのブロックで学び</p>	<p>7 みんなで育てよう</p>	<p>8 本町愛を育てよう</p>	<p>9 施設を活かそう</p>	<p>SHIBUYA HONMACHI GAKUEN GOALS</p> <p>渋谷本町学園の「特色ある教育活動」をまとめました</p>

令和4年度 週時程表 渋谷区立渋谷本町学園5～9年・F組

※ 赤字はチャイム時間

※ 5年・6年は後期開始から

	月	火	水	木	金
児童生徒登校	8:15～25				
朝打ち	職員打合せ 8:15～8:20		職員打合せ 8:15～8:20		職員打合せ 8:15～8:20
始業	8:25(出席確認)				
朝礼(月) 朝学活	8:25～8:40 朝礼・集会	8:25～8:35		8:25～8:35	8:25～8:30
移動時間	5分				
1校時	8:40～9:30		8:35～9:25	8:40～9:30	8:35～9:25
休憩	10分				
2校時	9:40～10:30		9:35～10:25	9:40～10:30	9:35～10:25
休憩	15分		10分	15分	10分
3校時	10:45～11:35		10:35～11:25	10:45～11:35	10:35～11:25
休憩	10分				
4校時	11:45～12:35		11:35～12:25	11:45～12:35	11:35～12:25
給食	12:35～13:15		12:25～13:05	12:35～13:15	12:25～13:05
清掃	13:15～13:25			13:15～13:25	
昼休み	13:25～13:40		13:05～13:15	13:25～13:40	13:05～13:15 学活 13:05～13:15
移動/準備	5分				
5校時	13:45～14:35		13:20～14:10	13:45～14:35	13:45～14:35
休憩	10分			10分	
6校時	14:45～15:35			14:45～15:35	14:20～15:10 委員会 14:20～15:05
終学活	15:35～15:45		14:10～14:20	15:35～15:45	15:10～15:20 クラブ 14:20～15:20
児童生徒下校	15:45		14:20	15:45	15:20

【第7学年】 TOKYO GLOBAL GATEWAYに来ました！ 1



7学年 普通救急救命講習 (9月17日(土))



7学年美術科 陶芸制作



5・7年生 運動会ソーラン節合同練習



【第8学年】青松慶侑さん講演「夢の追い方」



【第8学年】職場体験3日目

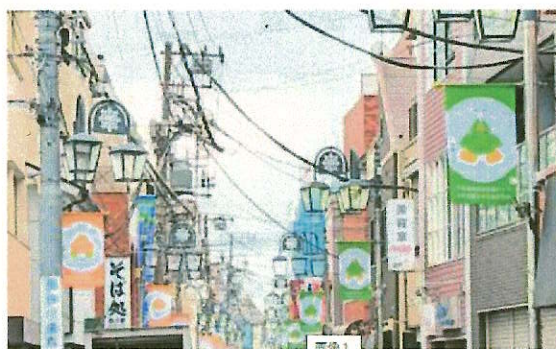


【第8学年】職場体験2日目



【9G 本可愛を育てよう】第8学年職場体験フラッグデザイン2

作業中の写真と商店街の写真です。



運動会まであと1週間！



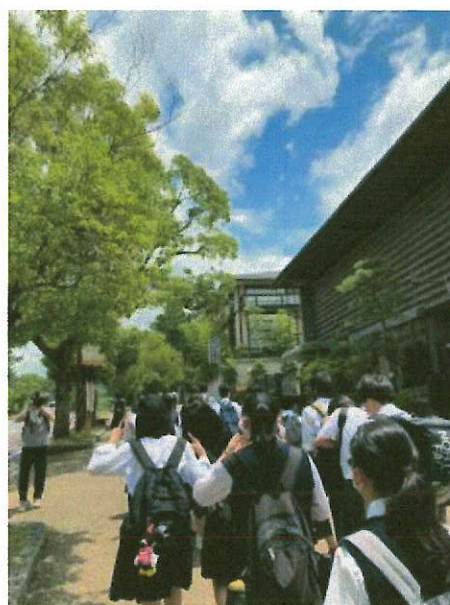
【9年生・F組】 9typhoon eyes



【8・9年生選手】 高等部選抜リレー



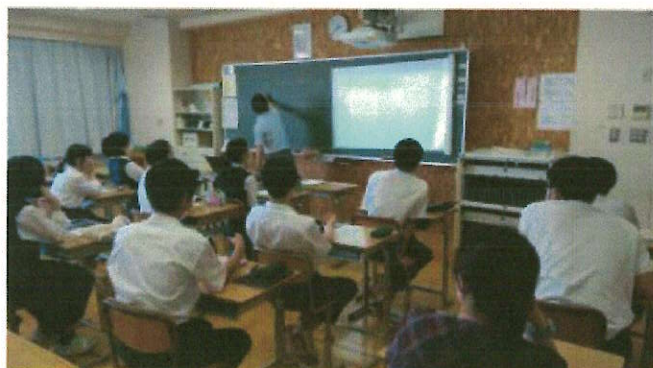
重要 修学旅行 新幹線へ



第1回進路説明会



【進路】 高等学校授業体験会



【進路学習】 卒業生のお話を聞く会にむけて



10月1日（土）に行われる「卒業生のお話を聞く会」に向けて、PTAの進路サポートの方々を中心に、準備を進めています。今日は映像で出演してくれる高校生のインタビューを行いました。

中央委員会の取組



児童生徒会役員選挙

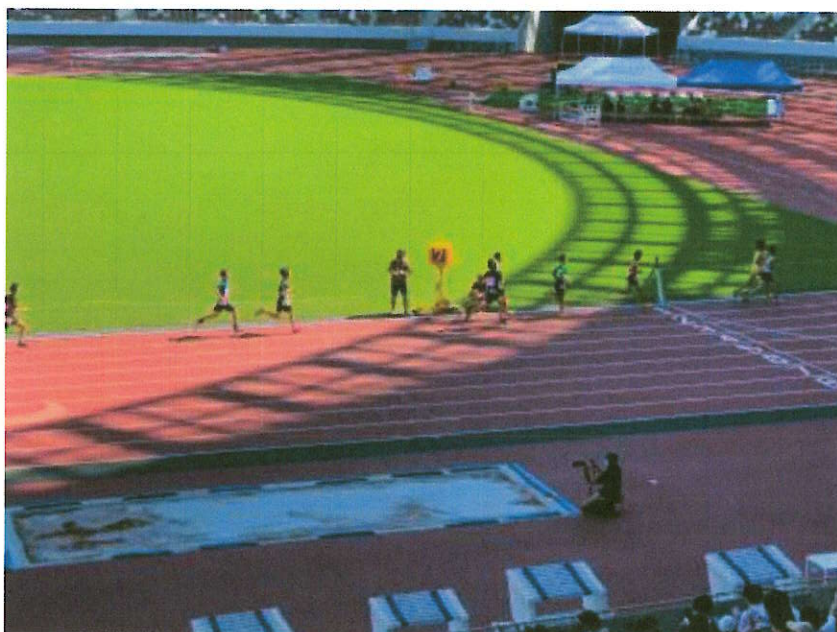


東京オペラシティ夏の祭典2022フェスティバル ボランティア



第75回渋谷区立中学校陸上競技大会

9月28日（水）、国立競技場で、全渋谷区立中学校の参加による第75回渋谷区立中学校陸上競技大会が開催されました。生徒達は、初めての国立競技場に感動すると共に、競技や応援に全力をつくしました。競技では6位入賞者も沢山出ました。またコロナの中、声などを出さないように工夫した応援も、盛り上がりました。



令和4年度 渋谷本町学園の評価・評定（7～9年）について

1 評価・評定の目的と個票・通知表

学校での評価は、生徒の今後の学習の改善に活かせるよう、生徒及び保護者に伝えることを目的としています。通知表の評価・評定は、学習目的に対してどの部分がどの程度到達しているかで判定する「目標に準拠した評価」（絶対評価）で行います。集団でどのような位置にいるかで判定する、相対評価ではありません。今後、定期考査の結果を「個票」として、観点及び評定を「通知表」として保護者の皆様にお知らせいたします。それらをご覧になることで、どの程度学習内容が達成されたかを知り、今後の学習の改善に活かしていただければ幸いです。

2 定期考査について

以下の日程で定期考査を実施します。テスト結果については定期考査ごとに「個票」を作成し、学習の記録として各家庭に通知いたします。

①前期中間考査 6 / 9 (木)、10 (金)
(国・社・数・理・英)

②前期期末考査 9 / 7 (水)、8 (木)、9 (金)
(国・社・数・理・音・美・体・技家・英)

③後期中間考査 11 / 10 (木)、11 (金)
7・8年 (国・社・数・理・英) 9年 (国・社・数・理・音・美・体・技家・英)

④後期期末考査 2 / 21 (火)、22 (水)、24 (金)・・・9教科 (7・8年生)
24 (金)、27 (月)・・・・・・・・・・ 9年生のみ2日間で9教科
(国・社・数・理・音・美・体・技家・英)

3 評価・評定について

(1) 評価の基準・根拠となるもの・評価の資料となるもの (参照学校HP 各学年の年間指導計画の資料)

(2) 観点別評価 (通知表)

・学習指導要領に基づいて、3観点で評価します。

①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

・「目標に準拠した評価」（絶対評価）で行います。

・評価の観点ごとに、3段階（A, B, C）で行います。

A：達成率80%以上「十分満足できる」

B：達成率50%以上80%未満「おおむね満足できる」

C：達成率50%未満「努力を要する」

4 評定（通知表）

評定は、観点別評価を総合し各教科の学習の状況を統括的に評価したものです。

- ・観点別評価の各観点を1／3ずつ併せて評定を5段階（5, 4, 3, 2, 1）で行います。

90%以上の達成値（十分満足できると判断されるもののうち特に高い程度のもの）	5
80%以上90%未満の達成値（十分満足できると判断されるもの）	4
50%以上80%未満の達成値（おおむね満足できると判断されるもの）	3
20%以上50%未満の達成値（努力を要すると判断されるもの）	2
20%未満の達成値（一層努力を要すると判断されるもの）	1

- ・評定の結果は、前期評定・後期評定・学年末評定として、各学期末にお知らせいたします。
- ・9年生は1月に「調査書記載事項通知書」にて、進路に関する観点別評価及び評定をお知らせいたします。

5 「特別の教科道徳」の評価

「道徳科」の評価は、数値による評価や他の生徒との比較による評価ではなく、生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認めるものとし、特に成長が顕著な事柄について記述したものを、学年末にお知らせします。

6 「総合的な学習の時間」の評価は、この時間に行った学習活動の目標や内容に基づいて定めた評価の観点のうち、顕著な事項について記述したものを学年末にお知らせします。

昨年度の進路実績

1. 令和3年度第9学年の進路先

◆国公立学校（30人）

大森、小台橋、工芸、国際、駒場、新宿、神代、杉並、総合工科、第一商業、竹早、千歳丘、田園調布、豊多摩、西、光丘、一橋、武蔵丘、目黒、芦花、練馬工業、中野工業

◆私立学校（30人）

関東国際、國學院、駒澤大学、実践学園、杉並学院、駿台学園、正則、大成、大東学園、東亜学園、東京立正、新渡戸文化、日本音楽、日本工業大学駒場、日本大学第二、日本大学櫻丘、東日本国際大学附属昌平、文化大学附属杉並、豊南、朋優学院、目白研心

◆その他(通信制・サポート校・専門学校など)（7人）

飛鳥未来、クラーク国際記念、聖進学院、バンタン、ヒューマンキャンパス、留学

2. 進路指導について

渋谷本町学園では、発達段階に応じた9年間のキャリア教育を通して、9年生で自分の進路を自ら決定できる力をつけることを目指しています。卒業生の進路先は多様で、それぞれが主体的に選択して自分の進路を決定することができました。

校内の推薦基準では、学習、生活ともに前向きに努力を続けられることが求められています。その点については、小学校からの知り合いがたくさんいる中での中学校生活ということで、安心して自分を表現できるような雰囲気があり、小中一貫の利点が生きていると感じます。また、小規模校であるため多くの人リーダーとして活躍し、自信をつけられる機会があります。このような学校生活の中から主体的に進路選択に向き合う姿勢や、推薦入試にも積極的に挑戦しようという雰囲気がつくられていると考えます。

3. 今後に向けて…

ここ数年はコロナウイルス感染症の影響により、入試においても特別な措置がなされるなど、変化が多く起きています。今後も社会情勢次第では、急な変更等あるかもしれません。また、都立入試においては本年度よりスピーキングテストが導入されます。進路決定に際しては、最新の情報を得て適切な進路選択ができるようにしてください。

9年生になると進路決定に向け、長期的に努力する必要があります。日頃から家庭で学習する習慣をつけること、生活リズムを整えることを意識し大事な時に力を発揮できるようにしてください。